

4-1 前置詞と句

1 前置詞の目的語

「前置詞」が、at, by, of, on, with のような語だということはよくご存知だと思います。ところで「前置詞」を漢字で書くと「前に置く^{コトバ}詞」となりますが、「前」って「何の前」に置くのか考えたことがありますか？

答えは「名詞」です。つまり裏を返せば、「前置詞」の後には名詞（または、それと同じ働きをする語）が来ます。たとえば、

- 前置詞＋名詞： **on** the desk, **in** the room, **with** my friends
 - 前置詞＋代名詞： **for** him, **without** you, **between** you and me
- 動詞を置くときは動名詞に変えて置きます。
- 前置詞＋動名詞： **after** eating, **without** saying good bye

この、前置詞の後ろにおいてその前置詞とペアを組む（これを「句を作る」といいます⇒ p.116）語句のことを「前置詞の目的語」といいます。上の **on the desk** だと「the desk は前置詞 **on** の目的語」です。そして前置詞の後ろに代名詞を置くときは「目的語だから目的格にして置く」という理屈がわかれば、**between you and me**（ここだけの話ですが）という慣用句で、主格 I ではなく目的格 **me** が正しいことがわかるでしょう。

前置詞には目的語が必要ですから、目的語がなければ前置詞でないことになります。次の例文で、**since** は (a) では前置詞、(b) では副詞です。

(a) I haven't heard from him **since last Friday**.

(この前の金曜日以来彼から連絡がない)

(b) I haven't heard from him **since**.

(それ以来彼から連絡がない)

もちろん前置詞の目的語が他の場所に移動していたり、ルール上省略されていたりする場合があります。たとえば、

What are you looking for? (何を探しているの?)

の文末にある前置詞 **for** の目的語は文頭にある **What** ですし、

This album is worth listening to. (このアルバムは聴く価値がある)

の文末にある前置詞 **to** の目的語は、ルール上、文の主語と同じ語句を補って考えることになっているので書かれていません。

また、複数の語句がまとまって1つの前置詞として働く場合は「群前置詞」と呼ばれることがあり、以下がその代表例です。

as to ... (...に関して) / according to ... (...によれば) /

because of ... (...が理由で) / due to ... (...が理由で) /

instead of ... (...の代わりに) / in spite of ... (...にかかわらず) /

owing to ... (...が理由で) / regardless of ... (...とは関係なく) /

thanks to ... (...のおかげで)

2 二重前置詞

次の例文を見てください。

A cat came out from under the desk.

この文が「猫が机の下から出てきた」という意味であることはすぐわかります。ただ、**from** という前置詞の後に **under** という別

の前置詞が並んでいるのがちょっと気になりますね。この **from** 以下を文法的に説明すると次のようになっています。

前置詞 + 目的語
from { **under** the desk }
 前置詞 + 目的語

このとき、見た目は **from** と **under** という前置詞が2つ並んでいるので、このような形を「二重前置詞」と呼んでいます。ただ二重前置詞で使える前置詞はある程度決まっています、1つ目の前置詞は、以下のようなものなどが多いようです。濫用は避けた方がいいでしょう。

① 「～から」「～まで」を表す語 (**from**, **till**, **until** など)

wait **until** *after* the meeting (会議後まで待つ)

② **except** (～を除いて) や **instead of** (～の代わりに) など「除外・代替」を表す前置詞(句)の後

Do not use the telephone **except in** an emergency.

(緊急時以外には電話を使わないでください)

She traveled by train **instead of** *by* plane.

(彼女は飛行機の代わりに電車で移動した)

3 句と節

「句」と「節」はどちらも意味を持ったカタマリですが、次のような違いがあります。

- 句：SV (主語と述語動詞) を含まない
- 節：SV を含む

たとえば、**a lot of** や **on the desk** は SV がないので「句」です。

また、以下のイタリックの部分は「節」です。

- (a) *When I was young*, I lived in Kofu.
(若かった頃、甲府に住んでいた)
- (b) I can't imagine *how the magician did the trick*.
(その手品師がどのようにそのトリックを行ったのか想像もつかない)
- (c) I'm looking for a book (*which*) you told me about.
(君が教えてくれた本を探している)

「節」はSVがそろっていれば、完全な文の形で終わっていません。たとえば、上の(c)のwhichで始まる節(関係詞節 p.168)は前置詞aboutの後ろに目的語がありませんが、you toldとSVがそろっているので、whichからaboutまでが「節」になるのです。

なお、上で「意味を持ったカタマリ」(意味のカタマリ)という語を使いましたが、リーディングやスピーキングの指導をする上で、ネイティブスピーカーが1つのまとまった意味だと感じる語句の集まりを最近では「チャンク」と呼ぶ場合があります。これは、従来の教育では、読解や作文で英語を1語1語分解して考える場合が多かったことに対して、「ネイティブスピーカーは英文を読んだり話したりするとき、そんなにバラバラに細かく分けてとらえていないのだから…」という発想から生まれた用語で、句や節とはまた別の概念です。たとえば、listen toは1つのチャンク、How are you?も1つのチャンクです。

4 形容詞句と副詞句

句は文の中での役割で「名詞句」「形容詞句」「副詞句」の3つに分けることができます。まずは名詞句の例を見てみましょう。

a book / a lot of comic books / traditional Japanese music